

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1994 号

Development of a modified prognostic index of patients with aggressive adult T-cell leukemia-lymphoma aged 70 years or younger: a possible risk-adapted management strategies including allogeneic transplantation

(70 歳以下のアグレッシブ成人 T 細胞白血病における修正予後予測モデル：同種移植を含めたリスクに応じた治療戦略の可能性)

藤 重夫 (ふじ しげお)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、70 歳以下の成人 T 細胞白血病・リンパ腫 (ATL) の急性型・リンパ腫型 (アグレッシブ ATL) における予後予測モデルの再構築を試み、その予後グループ毎に同種移植の影響を始めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。解析対象となった 1792 例のアグレッシブ ATL を Training set と Validation set の 2 群にランダムに分けた。Training set を用いて予後予測モデルの作成を行い、最終的に急性型、PS 不良、sIL-2R 高値 (>5000 U/mL)、補正 Ca 高値 (>12 mg/dL)、CRP 高値 (>2.5 mg/dL) が有意な因子として抽出され、各々のリスク因子を 1 点としその合計点が 0-1 点を低リスク群、2-3 点を中間リスク群、4-5 点を高リスク群と設定しました。Validation set を用いて検討したところ生存期間の中央値が 626 日、322 日、197 日と 3 群に層別化可能であった。各々のリスク群毎に同種移植の有無で成績を比較したところ、中間リスク群および高リスク群においては同種移植施行例の方が予後は良好であった。本論文は 70 歳以下の ATL のデータベースとしては史上最大規模のものであり、予後予測モデルを新たに構築することが可能であった。また、ATL における移植の意義を ATL のリスク毎に評価した研究はこれまでに世界的にも報告がなく、本研究において中間リスク群および高リスク群において同種移植の意義が大きい可能性が高いことが示されたことでより ATL における移植の適応がより明確に示されることとなった意義ある研究と考えられる。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。